

大学コンソーシアム富山 令和5年度「富山学」実施報告

<p>事業名</p>	<p>大学コンソーシアム富山 令和5年度単位互換開講科目 「富山学」</p>
<p>実施機関名</p>	<p>富山大学 奥 敬一（富山大学芸術文化学部教授）</p>
<p>趣旨・目的</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・富山の自然基盤の成り立ちと現状について理解し、産業やまちづくりとのつながり、防災の重要性などについて理解を深める。 ・フィールドワークや地域のひとびとの対話を通して富山の歴史的・文化的な成り立ちと現状について理解し、住環境や生活にみられる富山の価値に対する理解を深める。 ・富山県が持っている世界や日本の中での独自性・固有性を活かして、富山の将来像について日常の中で意識的に考え、行動できるような態度を培う。
<p>開催日時</p>	<p>令和5年9月5日（火）、9月12日（火）、9月19日（火）、 9月26日（火）</p>
<p>開催場所</p>	<p>大学コンソーシアム富山駅前キャンパス研修室2 五箇山合掌造り集落・他（9月12日は遠隔授業）</p>
<p>参加人数</p>	<p>学生45名 【内訳】・富山大学（38名） ・富山県立大学（3名） ・富山国際大学（4名）</p>

<p>事業内容</p>	<p>< 1～3回 9月5日(火) 1限～3限 ></p> <p>1. ガイダンス 講義全体の進め方、成績評価等についての解説 富山県の基礎情報；統計からみた富山</p> <p>2. 富山の自然基盤（水循環） 立山連峰から富山湾に至る大きな水循環について理解し、富山の産業や生活と深く関わっていることを学ぶ</p> <p>3. 富山の自然基盤（植生） 過去から現在にわたる富山の自然植生の変化と現況について解説し、緑地がグリーンインフラとして生活・住環境の維持に果たしてきた役割について理解する</p> <p>< 4～7回 9月12日(火) 1限～4限 ></p> <p>4. 富山の自然基盤（生物多様性） 富山の自然環境と社会文化の相互作用が織りなす生物多様性について解説し、住環境や食文化との関係について理解する</p> <p>5. 富山の自然の保全（立山連峰1） 立山の自然の保全の実態や、自然環境と両立する観光のあり方、さらに自然保護に関係する仕事について学ぶ 外部講師：環境省立山管理官事務所国立公園管理官・中森 健太</p> <p>6. 富山の自然の保全（立山連峰2） 立山山系の成り立ちから、産業との関係について学び、保全すべき価値が何かを学ぶ</p> <p>7. 富山の自然基盤（総括） 富山の自然環境を活用した商品やサービスについて学生が自主的に調査し、地域性が生み出す価値について理解する。</p> <p>< 8～11回 9月19日(火) 1限～4限 ></p> <p>8～11. 五箇山フィールドワーク 立山山系の地形的な特徴とその社会との関わりについて解説する 外部講師：五箇山自然文化研究会会員 9:45 富山大学五福キャンパス出発 11:00 菅沼集落到着 現地講師による菅沼合掌造り集落解説 五箇山民俗館、塩硝の館など見学 12:30 バスでタカンボースキー場へ 12:45 昼食 タカンボースキー場ふれあいハウス 13:30 タカンボースキー場茅場 茅場管理の取り組みについて解説 茅刈り体験(現地講師) 15:15 菅沼集落出発 16:30 富山大学五福キャンパス到着</p>
-------------	---

< 12～15回 9月26日(火) 1限～4限 >

12. ここまでの振り返り

9月5・12日の回の事後学習、および9月19日のフィールドワークで学んだ内容について振り返る

13. 富山の歴史と生活文化（五箇山の世界遺産としての価値）

富山県内の自然環境に育まれた特徴的な生活文化の景観のうち、五箇山地域について解説する。

14. 富山の歴史と生活文化（扇状地の生活文化）

富山県内の扇状地平野に展開する特徴的な生活文化の景観のうち、砺波平野、黒部川扇状地について解説する。

15. 総括

レポートにもとづくグループディスカッションと「富山学」のまとめ



9/19 フィールドワークの様子



コンソーシアム富山駅前キャンパスでの講義